

## 海外派遣留学プログラム 帰国報告書

記入日	2023.03.14
所属学部・ 研究科・学府	融合理工学府
所属学科・専攻	創成工学専攻

### 1. 留学先について

留学先大学名	ケルン工科大学(TH Köln)							
留学先所属学部等	KISD: Integrated Design Course							
留学期間	出発日	2022/9/5	入学日	2022/9/15	修了日	2023/2/3	帰国日	2023/2/13
住居	大学(紹介)の寮・アパート			民間アパート			<input type="radio"/> その他( )	
	通学時間	1時間					On campus	
	通学方法	電車						
	居室スペース	<input type="radio"/> 個室	( ) 人部屋		その他 ( )			
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室	<input type="radio"/> キッチン	<input type="radio"/> トイレ	<input type="radio"/> バス	<input type="radio"/> リビング	その他( )	
食事	自炊	80 %	学食	%	外食	20 %	その他	( ) %
保険	海外旅行保険(名称)	留学生トータルサポートプログラム						
	留学先国・大学指定の保険(名称)	AOK					<input type="checkbox"/> 加入必須	
	その他							
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)							
	成田 ⇄		アブダビ(飛行機)			⇄ フランクフルト(飛行機)		

### 2. 留学にかかった費用について

総費用	109万 円					
出どころ						
自費	貯金	円	アルバイト	万 円	その他	円
援助	<input type="radio"/> 親	14万 円	家族・親戚	円	その他	円
奨学金	<input type="radio"/> JASSO	95万 円	その他名称( )		円	
その他	その他( )					円

#### 2-1. お金の管理方法

渡航時	現金	5万 円	その他( )	円
留学中	<input type="radio"/> 海外送金	キャッシング	その他( )	

## 2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	振り込み
住居にかかった費用	振り込み、デポジットは現金
その他	

## 2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			10万	円
JTBトータルサポートプログラム (海外旅行保険・危機管理サービス)			9万	円
その他の保険料			10万	円
査証・在留許可証				円
住居		月500ユーロ	45万	円
光熱費				円
食費			20万	円
通学に要する交通費				円
教科書, 教材費				円
その他大学に支払った経費			5万	円
その他 (生活費用)			10万	円
その他 ( )				円
その他 ( )				円
その他 ( )				円
その他 ( )				円

## 3. 学業面

履修科目名	種類 ex.正規, 聴講	単位数	単位互換認定 申請の有無	
			有	無
1 KISD essentials	正規	2	有	無
2 Cologne Resources	正規	1	有	無
3 Mentoring	正規	4	有	無
4 Toy Story2	正規	6	有	無
5 (Social)Start-Ups	正規	6	有	無
6 PosterPlakatAffiche	正規	4	有	無
7 Web Design Starter	正規	3	有	無
8			有	無
9			有	無
10			有	無

### 3-1. 授業科目の選択, 登録方法

交換留学生在が必須で取らなくてはならない授業が3つある。その授業以外は大学の履修サイトで履修登録を行う。授業はプロジェクト、セミナー、コース、メンタリング、ワーキンググループ、語学コースなどの種類があり、授業時間を確認して時間が被らないように履修を行う。全部で20単位以上30単位以下の履修が可能。授業ごとに定員が決まっており、交換留学生在は優先順位が高い、名前のアルファベット順に優先順位が異なる等のルールがあり、履修を希望する人が多ければ履修が難しい授業も多くあるので慎重に考える必要がある。しかし、履修できなくても専用のwebサイトで授業の購読者になれば最初の授業で履修できる場合がある。

### 3-2. 授業内容, 方法に関して

授業は20人以下の少人数が多く、何かを教えてもらうというより学生がワークを進めて先生や学生が進捗に対してフィードバックをする、議論をするというスタイルだった。教室では一つの机を囲んで学生が座るので議論のしやすい環境だった。千葉大学では考え方を学ぶ授業が多かったのだが、KISDではつくことに着目して技術的なスキルを学べる授業も多くあり、幅広いデザインスキルが身に付く学校だと感じた。プレゼンテーションでは授業を履修した学生だけではなく、大学内の先生や学生全員が見ることができる。

### 3-3. 語学力について

KISDではかなり英語のレベルが高いと感じた。流暢に英語が話せないと議論で置いて行かれてしまう場面もあった。ドイツ語に関してはスーパーでの日常会話程度で生活はできる。しかし、授業でドイツの人々にインタビューをするときやビザの手続きでドイツ語が話せなかったのは少し苦労した。そのように困った時はドイツ語が流暢に話せる友達の助けを借りていた。

### 3-4. 図書館など学内施設について

図書館はデザインのキャンパスから少し離れたところにあったのだが、席が少なく、狭いため利用しなかった。ドイツ語でMenzaと呼ばれる学食は安かったため食へに行っていた。デザインのキャンパスでは、Gute Stubeと呼ばれる場所があり、コーヒーなどの飲み物を安く買うことができたのでよく利用していた。工房は12箇所ほどあり、作りたいものならなんでも作れるような環境が整っていた。授業で制作するものや、日常生活で欲しいものを工房で作っていた学生がたくさんいた。

### 3-5. その他

## 4. 生活面

### 4-1. 住居について

WG-geschtというサイトで留学前から探していたが、デポジットを内見の前に請求する詐欺師ばかりだった。結局家は見つからず、詐欺も怖かったので現地で探そうと思い、最初はAirbnbで生活しながら家を探した。ケルン到着後も家探しにはかなり苦戦した。大学のサイトで呼びかけたら寮のオファーなどをいただいたが、女子専用のシェアハウスが良いと思っていたので結局MixBという日本人専用の家探しサイトで女性3人のシェアハウスを見つけ、ケルンではなくデュッセルドルフだったのだがそこに住んだ。

### 4-2. 食生活について

最初は外食ばかりしていたのだが外食は10ユーロ以上してかなり出費が多くなってしまったので途中で自炊中心に切り替えた。スーパーは日本よりは高いがさほど変わらない印象だった。スーパーではたくさんのパンが陳列されており、安く買うことができた。最初は安いのでパスタ料理を中心に作っていたが米が食べなくなり、後半は米を主食にしていた。米は日本のものと比べると美味しくはないがスーパーで入手できた。デュッセルドルフに住んでいたのがアジアスーパーや日本食のスーパーもありなんでも入手できたが、値段がかなり高い。日本食レストランは一食で20ユーロはした。

### 4-3. インターネット環境, 携帯電話について

プリペイドのsimカードを購入し、お金をチャージして使っていた。最初はlycamobileという携帯会社で毎月15Gを20ユーロほどで購入していた。途中からO2という携帯会社に変えた。ドイツではO2はかなりメジャーだが接続が悪く、店の中に入ると使えなくなることが多かった。

## 4-4. 服装について

9月からの留学だったため、夏服もいくつか持って行ったがほとんど着ずに寒くなってしまった。ドイツのZARAで4着ほど購入した。ドイツの冬は日本の冬とさほど寒さは変わらないが、寒い期間は長かった。服もかなり高かったので日本から持っていくと良いと思った。

## 4-5. 健康管理について

ドイツに到着してすぐに体調を崩したが日本から持ってきた市販薬でなんとか回復することができた。日本ではあまりなかったのに乾燥のためか肌荒れが悪化して治らなかった。10月ごろから喘息のような症状にもなり、留学中は治らなかった。病院にかかろうと思ったのだが、異国の病院に行くのが怖くて行けなかった。

## 4-6. 保険、危機管理サービスの利用について

現地で携帯電話の盗難に遭ったため、トータルサポートプログラムの保険を適用した。

## 4-7. 課外活動について

特にしていなかった。

## 4-8. 学外のコミュニティとの交流について

facebookで繋がった子や、snsで見つけて参加したデュッセルドルフのイベントで知り合った子と仲良くなり、よく遊んでいた。

## 4-9. 日本から持参してよかったもの

私は日本のものをあまり持参しなかったのだが、日本のお土産があると良いと思った。日本のお菓子も良いが、折り紙(ドイツで調達した)はとても喜んでくれた。

## 4-10. 日本から持参したが不要だったもの

特にないが、日本の調味料などのものは高いが現地でも手に入るので、不要だと思った。

## 4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

ドイツ人の国民性としてメリハリがはっきりしているというところが一番印象に残った。プライベートと仕事をはっきり分かれており、夜になると企業の灯りが全て消えていたところに驚いた。また作業中などは真面目だが、プライベートやイベントごとなど騒ぐときはほとんど騒いでいた。ニューイヤークーニバル、ワールドカップなどは特に騒がしかった。また、留学生の遊び方にも驚いた。留学生は学校が終わると一度家に帰り、また大学付近で21時くらいに集まり、クラブやバーに行って夜通し遊んでいた。留学生の体力に尊敬した。

## 4-12. 余暇の過ごし方

## 旅行

ドイツはビザを現地で取得する必要があるのだが戦争で移民が増えている影響もあってか、かなり手続きが大変だった。最終的にドイツに滞在できるビザは取得できたが国外には行けなかったため、年末年始パリに行く予定を立ててホテルも電車も予約したが結局行くことができなかった。そのため、ドイツ、特にノルトラインヴェストファーレン州の各所を旅した。KISDの Semesterチケットというものがあればノルトラインヴェストファーレン州内なら無料で電車に乗ることができた。場所としてはドルトムント、ボン、クレーフェルトとアーヘンに行った。

その他 \* 気分転換やストレス発散法など。

私は旅行はあまりしなかったが、友達と色々な遊びをした。ボーリングやゴルフなどのスポーツをしたり、ドライブに行った。また、私は音楽が好きなのでコンサートホールを巡り、オーケストラを聴いたりもした。美術館やデザインの展示会も数回行った。

## 5. その他

### 5-1. 留学先大学について

KISDは全体で700人ほどしかいないのにも関わらず授業数がかなり多いため、授業は少人数制でアットホームでとても良かった。また、大学内に卓球やテーブルサッカーも設置されていたので気分転換ができた。最終プレゼンはFriday presentationと呼ばれ、学生と先生が全員見ることができるのも大学の特徴だと感じる。また工房が充実しており、千葉大学にはない設備なども見ることができた。学内のキッチンを使ってみんなで料理することもできた。留学生や学生全体向けのイベントもかなりあったのでそこで多くの学生や先生と交流できた。ほとんどの学生が留学生なので様々な国について知れるのもKISDの良いところだと感じた。

### 5-2. 留学希望者へのアドバイス

楽しかったことと同じくらい大変だったこともたくさんありました。私の場合、家がなかなか見つからなかったり、ビザがなかなか取れなかったことはかなり奮闘しました。ドイツは特に言語がドイツ語なので意思疎通が大変だったのでドイツ人の友達の協力をたくさん借りました。なので留学先では交換留学生との関わりが多いのですがドイツの友人を作ると良いと思います。私はSNS等でイベントを探しドイツ人と交流しに行っていました。また、ある程度英会話ができる状態から留学した方が良いと思います。私は英会話の練習はあまりせず留学に行ってしまったため、特に最初はコミュニケーションに苦戦しました。

### 5-3. 留学を終えて

留学は思っている以上に大変なことも多かったのですが得られたこともたくさんあった。見知らぬ地で何もかもわからない状態で生活するという体験を通して精神力や行動力を身につけることができた実感している。また、ドイツの学生との交流の中で大学を卒業した大学に入り直している人もいたし、KISDの修士学生は何年も大学に在籍する人も多くおり、日本ではあまり見られない多様な生き方に触れることができた。また、学内での活動を通して様々な考え方やデザインにも触れることができたと思う。私は日本での生活の中でこうあらなければならないと一つの考えに固執してしまっている部分があった。そしてその生き方、考え方に成れないと自分が間違っていると思ってしまう場面もあった。しかし、海外での生活を通して自分の生き方も考え方も性格も多様性の中の一つなのだと捉えることができ、少し自信をつけることができたと感じている。海外に行くではなく、海外に住む体験をしなければわからないことはたくさんあると思う。私の留学は半年のみだったが、自分の生き方や考え方に大きな影響を与えたのではないかと感じる。